

## 第二回

平成二十三年度

宇都宮短期大学附属中学校

# 入学試験問題

国語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は四〇分間です。
- 3 問題数は大きな問題が二問で、問題文は一ページから六ページまであります。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- 5 「始め」の合図があったら、すぐに受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。
- 6 試験中に質問があれば、手をあげて先生に聞いてください。
- 7 「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおいてください。

〔一〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

王子に対する人魚姫の想いに関していえば、たとえ初めの動機が不純だとしても、彼女が本当に王子を愛するようになったことは確かだろう。(A)、人魚姫が自分は「海の泡」になってしまふのを承知で、姉たちからもらった短剣で王子を殺害することを拒否したとき、彼女の愛は自らの打算を乗り越えている。永遠の魂を得て天国にいくどころか、翌朝にも「海の泡」と消えることを承知で、王子に対する自分の愛を守り通そうと決心しているからだ。

王子は隣の国の姫と結婚し、人魚姫は「海の泡」になってしまふが、この物語は悲劇的結末を迎えるのかといえ、答えは否だ。むしろアンデルセン自身は、ハッピーエンドにしたと思っただろう。というのも人魚姫が「海の泡」となったあと、不思議なことが彼女に起こるからだ。

人魚姫は「海の泡」となったあと、それで終わりになるのではなく、なか空に漂っている「すきとおった美しいもの」になる。それは、しばらく読んでいくと「空気の娘たち」だということがわかる。つまり人魚姫は「海の泡」になって死んだのではなく、「空気の娘たち」の一人になった。「空気の娘たち」は人魚と同じように不死の魂を持っていないが、三〇〇年のあいだ善行をつめば、それが得られると彼女たちはいう。

この善行とは「熱い国へとんでいって、涼しい風を吹かせる」とか「花のかおりを空中にふりまいて、すがすがしいさわやかな気分を送る」ということだ。しかも「空気の娘たち」が人魚姫に、一生懸命努力すれば三〇〇年という期間が短くなるとツげる。

人魚姫は王子の愛を得ようとして、不死の魂を手に入れることができなかった。その点では悲劇的結末だ。しかし「海の泡」になったあと、「空気の娘たち」の一人にしてみらった。そのことで、自らの努力で不死の魂を手に入れる道が開けた。もともと彼女が欲しかったのは、王子の愛ではなく、この不死の魂だった。

(B)、アンデルセンの童話に自伝的要素の反映を見ようとする研究がある。(C)、マッチ売りの少女は貧しかった彼の母がモデルだ、醜いアヒルの子は、あこがれの上流社会に出入りがユルされたものの、そこになじめなかった彼の姿だというものだ。

③ このような見方にしたがうと、「人魚姫」はよくわかる。つまり、海の(1)はアンデルセンが属している平民の社会で、海の(2)は貴族たちの上流社会になる。そうすると、海の(3)に生まれながらも、海の(4)にあこがれる人魚姫は作者自身だということになる。

(D)「声」を失うことは、上流社会に入ったものの、彼が出自を気にして十分に自己主張できないことを意味する。あるいは自分らしさを失うことと考えてもいい。

「声」と引き替えに足を手に入れても、歩くたびに「とがったきりと、鋭いナイフの上を踏んでいるような」激しい痛みを感じ、足から血を流さなければならぬのも、アンデルセンにとって、やっと入れた上流社会が実際は(5)だったことを意味するととれる。

一九世紀のヨーロッパでは、身分の違いを乗り越えるということは、それほど多くの犠牲と苦痛をとまなうことだった。彼は何度となく、自分の「分」を守って暮らすほうが幸せだと思ったことだろう。

人間の世界にあこがれ、そこに入るために王子に恋する人魚姫に、アンデルセンが厳しい罰を下すのは、貴族の世界にあこがれ、ようやくそこに出入りできるようになったが、そのためにかえって自分らしさを失い、仕方なく耐え従う日々を送ってきた自分を罰しているつもりなのだろう。

献身的に愛する人魚姫が王子と結ばれないのも、アンデルセンは自身の経験から、人魚姫が王子と結婚できてもハ

ッピーエンドでは終わらないことをよく知っていたからだ。そして、最後に彼女を「海の泡」で終わらせずに、「空気の娘」にして三〇〇年の善行をもって永遠の魂を得させようとするのも、自分自身のシツパイした人生をやり直し、自らの悩める魂なやに救いを得たいという願いからだ。

このように読むと『人魚姫』はイガイに奥おくが深い。

(有馬ありま 哲夫てつお「デイズニーの魔法まほう」から)

(注1) 打算さん損そんか得とくかを計算すること。

(注2) ハッピーエンドすべてうまくめでたい形で終わること。幸福な結末。

(注3) 出自しゅつじその人の出どころ。生まれ。

(注4) 献身的けんてき自分の命や利益をささげるほど一心につくす様子。

問い1 || 線 a s g の漢字の読み方をひらがなで、カタカナを漢字で書きなさい。

問い2 ( ) A S D に入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア [A また B しかも C たとえば D ところで]

イ [A とところで B しかも C また D たとえば]

ウ [A しかも B とところで C たとえば D また]

エ [A たとえば B とところで C また D しかも]

問い3 ① 拒否したに直接かかる主語を、本文中の~~~~線アオから選んで、記号で答えなさい。

ア 人魚姫が イ 自分は ウ 姉たちから エ 王子を オ ことを

問い4 ② 悲劇的結末を迎えるのかといえば、答えは否だ。むしろアンデルセン自身は、ハッピーエンドにしたと思っ

ているだろう。とありますが、筆者の考える「悲劇的結末」と「ハッピーエンド」は、それぞれのどのような結末のことですか。解答らん「~~~~という結末」に続くように、本文中から「悲劇的結末」は十九字で、「ハッピーエンド」は二十一字で書きぬきなさい。(、や。も字数に数える。)

問い5 ③ このような見方とありますが、どのような見方ですか。解答らん「~~~~見方」に続くように、本文中から二十一字で書きぬきなさい。(、や。も字数に数える。)

問い6 [ ] (1) (4) には、「上の世界」または「下の世界」のいずれかが入ります。「上の世界」なら「ア」、  
「下の世界」なら「イ」と答えなさい。

問い7 ④ 「声」とありますが、ここでは何を例えていますか。本文中から四字で書きぬきなさい。



手紙は、『前略 昭広は元気ですか』で始まっている。

最初に俺のことが書いてあったのが嬉しくて、俺は手紙を読み進んだ。

ところがその後、手紙には苦しいかあちゃんの近況がつづられ、『……毎月五千円を送っていましたが、今月は二千円しか送れないので、お母さん、何とかお願いします』と書かれてあったのだ。

ばあちゃんが茶の間に戻って来たとき、俺は何食わぬ顔で座っていたけれど、内心はどうしていいか分からなくなっていた。

ただでさえ貧乏なのに、今月はかあちゃんが二千円しか送ってこないのだ。

## 【 II 】

考えた末、俺は晩ご飯を控えることにした。

その日の夕飯になった。

おかずは相変わらず貧相で、漬け物と野菜の煮たのだけだった。

おかずが少ししかないので、俺はその分、いつも白い飯を腹いっぱい食っていた。

茶わんが（ A ）からっぽになった。

いつもなら、「おかわりー」と言うところのだが、その日はそこで茶わんとはしをおいた。

おかわりしてくれようとしていたばあちゃんが、怪訝な顔になる。

「どうしたと?」

「別に。今日はもういい」

「なんで?」

「……………」

「具合でも悪かとね?」

「別に」

「おかわりして、ご飯、もう一杯食べんね?」

「もう、いい…………」

うなだれている俺を見て、ばあちゃんは、はっと気づいたように言った。

「お前、手紙見たのか?」

「うん…………」

その時、俺を見たばあちゃんの顔は、今でも胸の奥に焼き付いている。

怒っているような、悲しいような、なんともいえない顔だった。

## 【 III 】

俺は、たまたまなくなつて家を飛び出した。

土手まで行くと、それまでこらえていた涙が、（ B ）あふれ出してきた。

何もかもが、腹立たしくて、くやしくて、たまたまなかった。

家に帰ってばあちゃんと顔を合わせるのが嫌で、俺は（ C ）土手を歩き続け、暗くなってから、そっと自分の部屋へ戻った。

## 【 IV 】

すると、きちんと敷かれた布団の枕元にフキンをかけたお盆が置いてある。

フキンをとると、大きなおにぎりが一つ、お皿に載<sup>の</sup>っていた。

⑥『ごはんくらい、食べなさい』というばあちゃんの手紙と一緒に。

⑦また涙がこぼれそうになりながら、おにぎりを食べていると、ばあちゃんがガラリとふすまを開けた。

「帰ってたのか」

「うん」

「ばあちゃんは、それ以上は何も言わず、おにぎりを食べる俺をじっと見ていた。

<sup>注3</sup> きじょう

気丈<sup>きじょう</sup>な人だったので涙はこぼさなかつたけれど、その時、ばあちゃんの瞳<sup>ひとみ</sup>は

( D )、ゆらゆら揺<sup>ゆ</sup>れていた。

「先祖代々貧乏<sup>せいぼう</sup>」と豪快<sup>ごうかい</sup>に笑っていたばあちゃんが初めて見せた涙だった。

(島田洋七「佐賀のがばいばあちゃん」から)

(注1) 近況<sup>きんきやう</sup>⇨最近の様子。

(注2) 怪訝<sup>かいげん</sup>⇨訳が分からず納得<sup>なっとく</sup>のいかない様子。

(注3) 気丈<sup>きじょう</sup>⇨気持ちがいっしょかりしていること。

(注4) 豪快<sup>ごうかい</sup>⇨気持ちがいっしょかり強いこと。

問い1

i

と

ii

に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選んで記号で答え

なさい。

ア 「i 感謝

ii 苦しみ」

イ 「i 希望

ii 悩み」

ウ 「i 大変さ

ii 愛情」

エ 「i くやしき

ii 理想」

問い2

次の文は、本文中の【 I 】、【 II 】、【 III 】、【 IV 】のどこに入りますか。 I、II、III、IVの記号で答えなさい。  
のほほん<sup>のほほん</sup>と暮<sup>く</sup>らしている場合ではない、という気がしてきました。

問い3

① 何気なく、何食わぬ顔<sup>なにをくわぬがほ</sup>の本文中での意味は、それぞれどれですか。下から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

① 何気なく

ア 成りゆきにまかせて

イ 少しだけためらって

ウ あれこれ考えた末

エ これといった考えもなく

② 何食わぬ顔

ア 何かをさぐるような表情

イ 何もしらないようなふり

ウ まったく気にしない態度

エ どこか満足できない様子

問い4

③ 内心はどうしているか分からなくなっていた。とありますが、それはなぜですか。次の中から適当なものを選んで、記号で答えなさい。

ア 手紙から、「俺」と「ばあちゃん」の生活を大切に扱<sup>あつか</sup>わない「かあちゃん」に疑問を覚えたから

イ 手紙から、「ばあちゃん」との楽しい生活が終わることを予感し、さみしさがこみあげてきたから

ウ 手紙から、今後の「ばあちゃん」との生活がますます厳しくなることを知ってしまい、驚<sup>おどろ</sup>いたから

エ 手紙から、「俺」を引き取ろうとする「かあちゃん」の計画を察して腹立たしさをおさえきれなくなったから

問い5 ④ ばあちゃんが、怪訝な顔になる。とありますが、それはなぜですか。その理由を本文中の語句を使って、解答らんの「くから」に続くように二十字以上二十五字以内で答えなさい。(、や。も字数に数える。)

問い6 ( ) A S Dに入れる言葉の組み合わせとして、次の中から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

- |   |            |           |           |           |
|---|------------|-----------|-----------|-----------|
| ア | 「A またたく間に  | B 一気に     | C むやみやたらに | D 確かに     |
| イ | 「A むやみやたらに | B 確かに     | C またたく間に  | D 一気に     |
| ウ | 「A 一気に     | B むやみやたらに | C 確かに     | D またたく間に  |
| エ | 「A 確かに     | B またたく間に  | C 一気に     | D むやみやたらに |

問い7 ⑤ 俺は、たまらなくなって家を飛び出した。とありますが、その時の「俺」の気持ちとして、次の中から最も適当でないものを選んで記号で答えなさい。

- ア 貧乏のせいで皆が辛い思いをするのを、我慢できないと思う気持ち
- イ 「ばあちゃん」のなんともいえない顔を見て、その場にいることを、たえられなくなるほど辛く思う気持ち
- ウ 「ばあちゃん」との苦しい生活に対して、どうすることもできない自分の無力さを情けなく思う気持ち
- エ 繰り返される同じ質問に対して、答えることをうっとうしく思う気持ち

問い8 ⑥ 『「ほんくらい、食べなさい」というばあちゃんの手紙とありますが、ここに込められた「ばあちゃん」の気持ちとして、適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 今まで一度もご飯を十分に食べさせてあげられなかった「俺」に対し、申し訳なく思う気持ち
- イ 自分に気をつかっている「俺」に、余計な心配をするなど伝えたい気持ち
- ウ 母親に代わって、貧乏で辛い生活を受け入れるよう「俺」にうながそうとする気持ち
- エ 急に家を飛び出した「俺」が、自分の考えを理解してくれたことをうれしく思う気持ち

問い9 ⑦ 涙がこぼれそうとありますが、その説明として適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 思いがけず食事を取ることができてありがたいと思っっている「俺」の様子が表れている。

イ 「ばあちゃん」の優しさに胸がいっぱいになっている「俺」の様子が表れている。

ウ 暗くなっても探しにきてくれなかった「ばあちゃん」に失望する「俺」の様子が表れている。

エ 機嫌を悪くして話しかけてもくれない「ばあちゃん」に不満を感じている「俺」の様子が表れている。

問い10 この文章から読み取ることのできる「ばあちゃん」の説明として適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 苦しい状況にあってもくじけない強さと、さりげない思いやりを持つ人物
- イ 貧乏な生活を笑いに変え、自分の考えを強引に押しつけようとする人物
- ウ 大変な暮らしを乗り越えていく忍耐力と、他人に対する厳しさを持つ人物
- エ 貧乏な生活を嘆きながらも、気丈にふるまおうとする人物

